

評価の基準 (3:よく当てはまる 2:あてはまる 1:あまりあてはまらない 0:あてはまらない)

大項目	評価項目	保護者	教員	学校関係者	児童	分析 及び 改善へのアクション
1	主体的な学び(対話的で深い学び)の学び合い	2.0	2.0	2.6	2.3	【分析】 ・「めあて」「ふりかえり」という学習スタイルが定着してきた。教科や単元によって異なるが、具体的な内容で振り返りをする子どもも増えてきた。しかし、内容などに関しては学力差も見られる。 ・体験的な活動は、地域との連携のもと工夫され充実しているが、その時間の活動として終わってしまうことが多い。他教科につなげる学習計画を検討していく必要がある。
						【改善へのアクション】 ・振り返りから、自分の学びを見返す時間を作り、次の時間のめあてへとつないでいく。学力差においては自由進度学習など個別最適な学習環境を配慮していくことで一人一人が成長を実感できるようにしていく。 ・各学年で行われている体験活動と他教科とのつながりを意識することで、より主体的に取り組める内容を検討していく。
2	道徳教育の充実	2.1	2.0	2.4	2.6	【分析】 ・相手の気持ちを考えずに、乱暴な言葉をつかってしまう。また、自分をふり返ることが難しく、人を責めてしまう。 ・学校と地域、家庭との連携を更に深めていく必要がある。 ・授業で「ねらい」としていることが、子どもの心に響いているのか見えにくく、生活に活かされているのかが分かっていない。
						【改善へのアクション】 ・一人一人の心に響かせるために、授業での資料の効果的な使い方の研究に努めている。 ・保護者・地域へ啓発をしながら、学校だけでなく、家庭、地域でも考えていける場をもてるようにしたい。 ・道徳研修を実施し、授業改善につなげるように努めていく。
3	体力づくり	1.8	2.3	2.5	2.5	【分析】 ・各学期ごとに体育委員会による体を動かすイベントを実行しており、たくさんの児童が参加できている。 ・全く体を動かさなかったり、体を動かすことがある。 ・投げる力や跳ぶ力が伸びてきているが、持久力が課題である。
						【改善へのアクション】 ・課題に応じた授業の改善。 ・より多くの児童が参加してくれるイベントの企画。
4	組織的指導改善(計画的指導)	2.0	2.3	2.6	2.6	【分析】 ・田上スタンダードの定着により、教師のねらいと子どもの思いが一致するような学習展開を意識して教師が授業を考えるようになってきた。その結果、児童は少しずつ成長を実感することができ、主体的な学びにつながっている。「授業の導入5分が授業のめあて5分に最低1日1教科はeライブラリを使って復習する」という取り組みを多くの学級で実践できており、自分のペースで学べるという安心感が主体的な学びにつながっている。
						【改善へのアクション】 ・「田上小スタンダード」のレベルアップ 校内研究と連携して取り組んでいき、成長を実感できるふりかえりの工夫を目指す。 ・「eライブラリ」を使った基礎学力の定着 「eライブラリ研修会」を定期的に関し、課題の精選やタブレットの持ち帰りによる家庭学習を検討していく。 ・「定期的なOJT研修」による指導力向上 テーマを設定した勉強会を月1回開催し、様々な教員の指導技術が共有できる機会を作る。合わせてICT活用研修会も行っており、指導力向上と業務改善を目指す。
5	家庭・地域との連携	2.1	2.0	2.6	2.5	【分析】 ・学校からの情報発信や連絡について、toruruを使うことが定着してきて、保護者のスマートフォンに直接情報を届けることができ、円滑化・効率化を図れた。 ・学校ホームページで、学校よりなどの発信と、「校舎の窓から」のコーナーの更新回数が増えた。 ・1学期末の学級懇談会で、学校の教育方針や教育内容を説明したり、理解していただく機会を持つことができた。
						【改善へのアクション】 ・少数だが、toruruに未登録の家庭もあるため、継続して登録を促し、確実に連絡が届くようにする。 ・学校ホームページの「校舎の窓から」のコーナーは、全教職員が更新できるように、年度当初に研修をする。
6	家庭・地域との連携	1.8	2.0	2.5	2.6	【分析】 ・避難訓練や防犯教室・交通安全教室など、各学年の発達段階にあった内容で子どもの安全に対する意識を高めることができた。 ・今年度は、田上コミュニティ事業「田上っ子全員集合!田上大好き!田上祭!」を実施することができ、家庭・地域・学校の連携ができた。
						【改善へのアクション】 ・今年度同様、防災・安全に関する行事や教室を行い、自分事として参加できるような内容を検討し、より安全に対する意識を高められるようにする。 ・子どもたちを中心に置いて家庭・地域・学校が連携したコミュニティ事業となるように、家庭・地域・学校で共々考える機会を継続して作っていく。
7	保幼小中の連携	2.2	2.3	2.8	2.5	【分析】 ・保幼小連合会や毎月の小中連絡会を行うだけでなく、気になることがあれば、その都度、保幼小と連絡を取り、情報共有を行ってきた。 ・保幼小交流では、音楽会や運動会、どんぐり拾い、秋祭りなどを通して園児と1・5年生との交流を行い、交流後には教師間で活動の振り返りを行い、成果や課題を共通理解することができた。 ・中学校の先生による6年生への出前授業を実施したり、上田上小6年生と学校紹介の動画視聴やオンライン交流を行ったりと、中1ギャップの未然防止につなげた。
						【改善へのアクション】 ・入学後の関わりを見据えて、園児と5年生との交流の場を増やしていきたい。来年度も、保幼小で年度初めに年間計画を確認し、年度末には活動の振り返りを行い、次年度につなげていきたい。
8	生徒指導体制の充実	2.0	2.0	2.4	2.3	【分析】 ・昨年度末に全校で1年間頑張る取組を「あいさつ」と決定した。子ども達が決めることで自分事としてとらえることができ、運営委員会や生活委員会が中心となって全校の子ども達にあいさつを意識させることができた。 ・「生活と健康のアンケート」結果を保護者に伝え、生活面での改善点を示した。
						【改善へのアクション】 ・自分から明るいあいさつができる子どもが増えた。来年度も、あいさつが習慣となるような取組を子ども達と考える。 ・生活習慣については、保健や家庭科の時間を使いながら早寝早起きや睡眠の大切さについての指導を行ったり、保護者と連携し家庭での過ごし方について協力を得たりしながら改善を目指している。 ・情報モラル勉強会を開催しているが保護者の参加率が低い。より多くの保護者に参加していただき改善につながるよう、通信等でさらに啓発をしていく。
9	生徒指導体制の充実	2.2	2.0	2.4	2.0	【分析】 ・「ヘビーリーフ」で不登校や虐待、トラブル等の情報を全職員で共有し、担任だけでなく複数の教師で子どもの様子を把握し対応が遅れてしまうことのないよう意識した。 ・いじめの疑いがある事案は、直ちにいじめ対策委員会を開き、対応を共通理解して進め、事案に関わる児童が安心して過ごせるよう見守り体制を継続した。 ・教育相談室に合わせ、二学期から朝の「田上っ子タイム」を設定し一人一人とじっくり話す機会を設け、教育相談の充実にも努めた。 ・不登校傾向の児童に対して、こまめに家庭と連絡を取ったり、スクールカウンセラーにつないだり助言を受けながら別室登校、放課後登校など、その子に応じた対応をした。 ・不登校気味の子の対応が遅れてしまわぬよう、職員室に不登校傾向のある児童の出欠状況が分かるホワイトボードを設置し、複数の目で気にかけるようにした。
						【改善へのアクション】 ・いじめ事案の中で、同じ相手から繰り返し何かがされることに被害児童の保護者は怒りを大きくされることが多く、指導の仕方、保護者への連絡の仕方をしっかり話し合っておくことが必要。 ・スクールカウンセラーの利用を促していく。 ・朝の田上っ子タイムを継続し、教育相談の充実や、クラス会議、読み聞かせ、ソーシャルスキルトレーニング等を通して、自尊感情や自己有用感を高めていきたい。
10	特別支援教育の充実	2.1	2.2	2.5	2.7	【分析】 ・教職員に、年度当初に個別の指導計画作成の見直しを示したことで、計画的に保護者と連携してもらえるようになったが、前期の手立てについて保護者との情報共有の場が必要との意見があった。コーディネーターが懇談に入り、組織的な支援と承るようになった。 ・通級や別室、学級担任、支援員との情報共有を大切にして、効果的な支援のあり方を検討・実践してきた。 ・2年生の読み書きのつまづきをなくすために、コーディネーターが1・2学期にMMOの実践をつまあげタイムに行い、特殊支援でつまづいていた児童も書くことができるようになった。 ・担任と一緒に家庭訪問等に行き、保護者の思いをしっかりと受けとめ、支援に生かした。
						【改善へのアクション】 ・個別の指導計画作成について、4月の個別懇談会の機会を効果的に活用していく。 ・別室指導については、個別のアセスメントをしっかりとすることで個に応じた必要な支援を模索していく。 ・通常学級での具体的な言動からアセスメントをきっちりして、校内委員会で手立てを話し合っていく。